

みんなでホイッ! part3

玉川まちづくりハウスの活動記録

2001-2010

このネット文庫は平成22年度公益信託世田谷まちづくりファンド助成事業／ネット文庫制作部門の助成を受けて、NPO法人玉川まちづくりハウスの最近の活動をまとめたものです。少しでも多くの方に興味を持っていただき活動に参加していただけたらと願っています。

これまでの活動は、「みんなでホイッ!」part1(1991—1996)、「みんなでホイッ!」part2(1996—2000)にまとめられ冊子として販売しております。

最新の情報は玉川まちづくりハウスのホームページに随時載せておりますのでそちらもあわせてごらんください。



TAMAGAWA
**COMMUNITY
DESIGN HOUSE**

私たちがめざすこと

1991年春のNPO 玉川まちづくりハウス発足以来、このまちでは大小さまざまな“まちの活動”が生まれてきました。この間ハウスは、みなさんと一緒にだれでも利用可能な公開の“活動の場所”、“開かれた集いの機会”、ニュース、ホームページ、メール等の“まちのメディア”を創り、運営することに力を入れてきました。

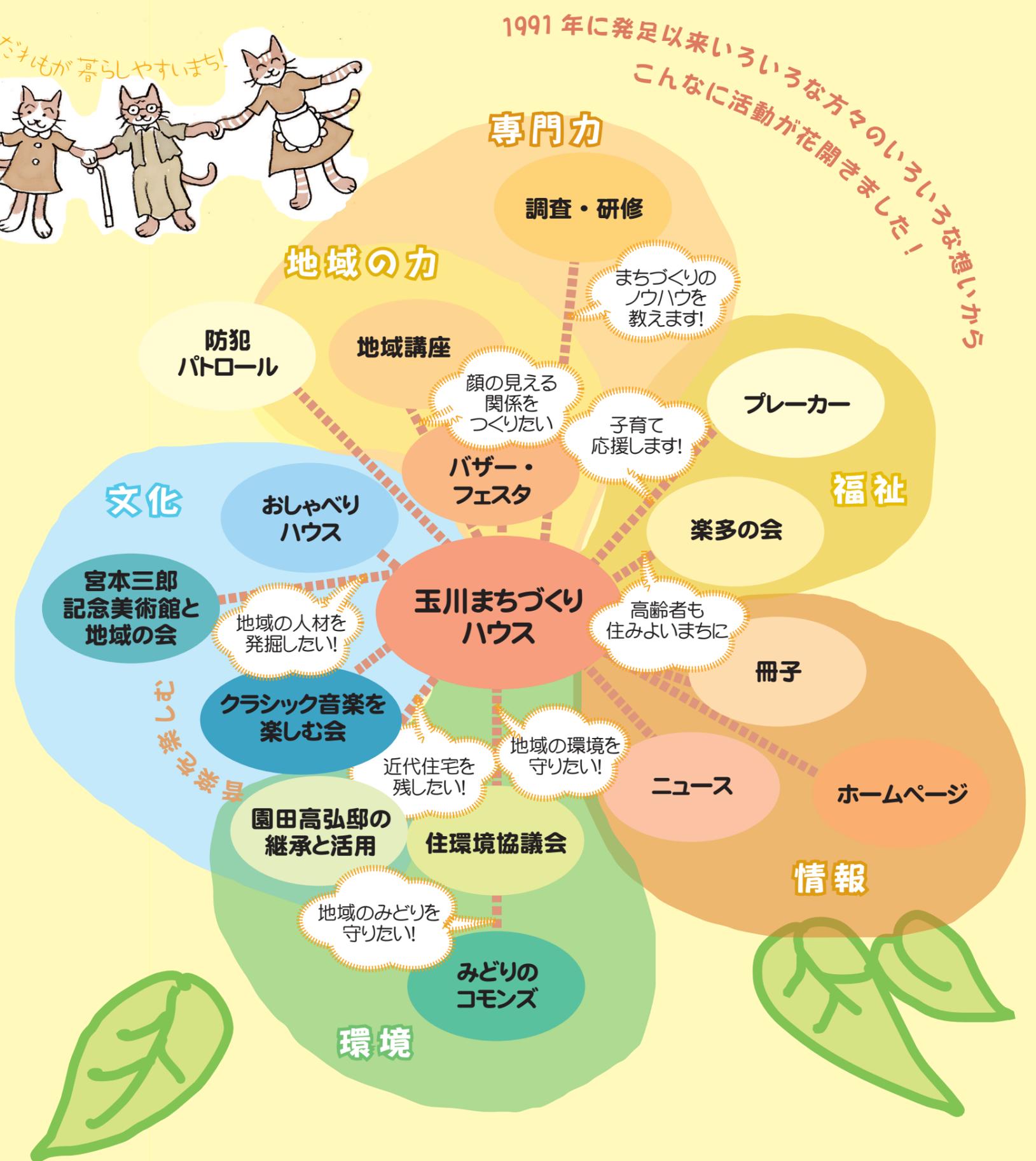
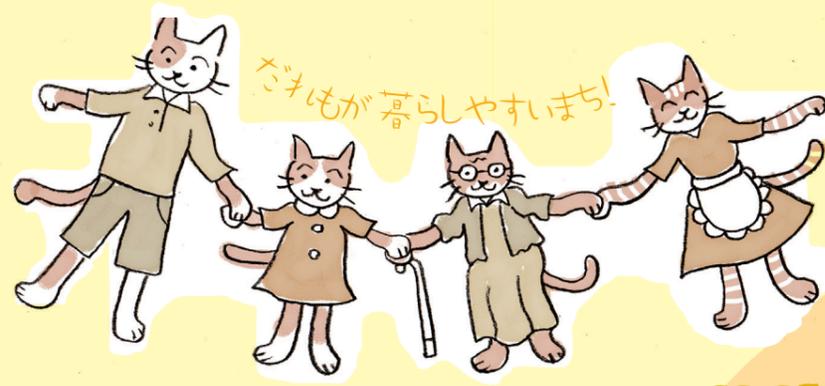
その結果“暮らしとまちの世界”は右側の図に描かれているように、予想外に広く、多様に展開しています。この人と人のつながりがいっそう豊かになるよう、いろいろな人の居場所や出番が多いまち、支え合いのあるまちをめざしてハウスは活動していきます。

そしてハウスは、“まちのみなさん”からの“暮らしとまちへの想い”が届くことを楽しみにしています。みなさんとともに、その“想い”を人々に呼びかけ、“想い”を重ねあわせて具体的な活動に取り組みましょう。

玉川まちづくりハウスは、みなさんと一緒に“想い”を実現する活動の一端を担いたいと思っています。



玉川まちづくりハウス
運営委員 林 泰義さん



さまざまな活動を少しずつ、ご紹介していきます.....

玉川まちづくりハウス活動 MAP

A ねこじゃらし公園



『プレーカー』の活動を行っています！

MAP: 世田谷区奥沢 7-46-5

B 宮本三郎記念美術館



『宮本三郎記念美術館と地域の会』の活動拠点です！

MAP: 世田谷区奥沢 5-38-13

C デイ・ホーム 玉川田園調布



『バザー』と『楽多の会』の活動にお借りしています！

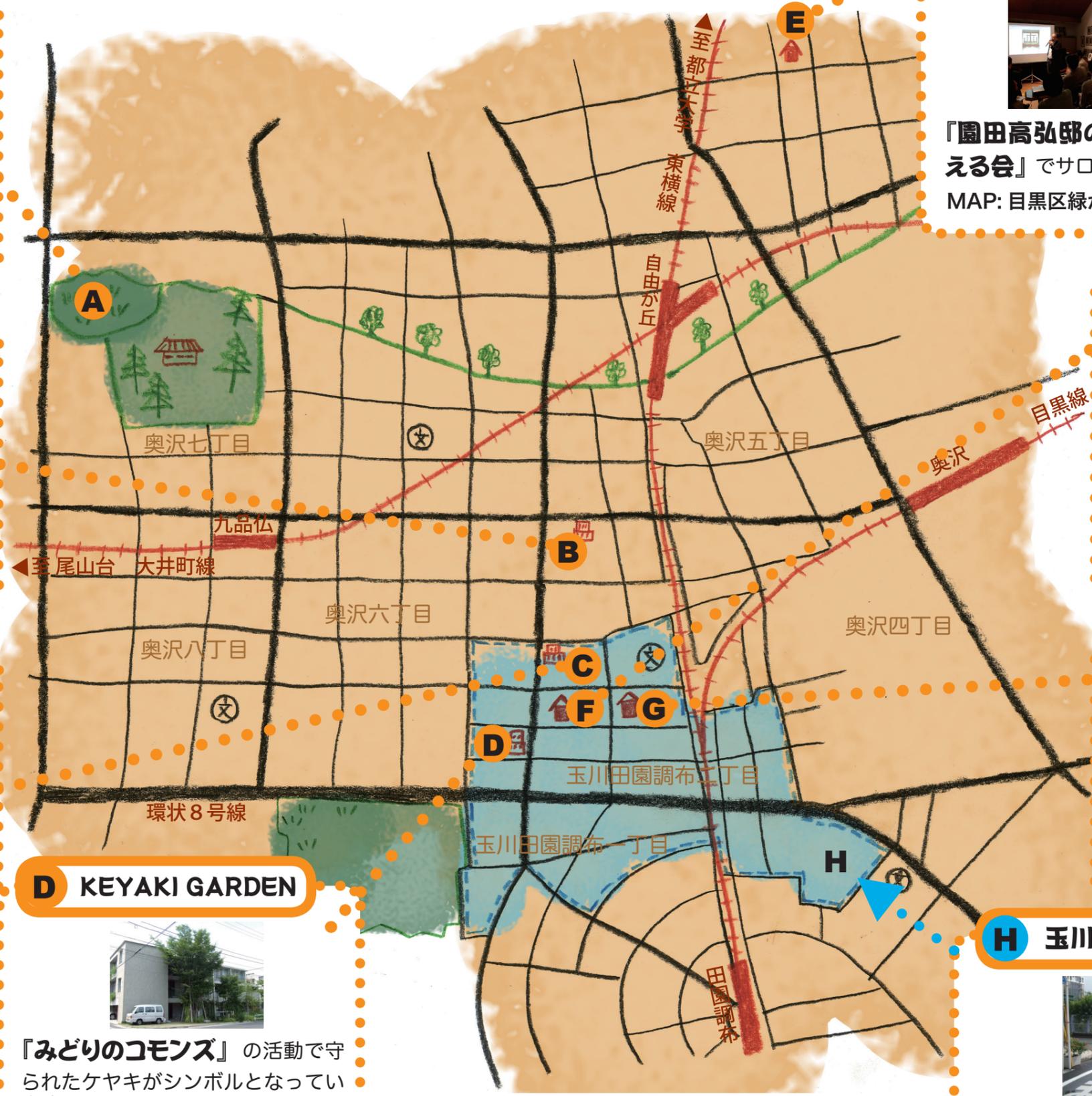
MAP: 世田谷区玉川田園調布 2-16-12

D KEYAKI GARDEN



『みどりの commons』の活動で守られたケヤキがシンボルとなっています！

MAP: 世田谷区玉川田園調布 2-8-1



E 園田高弘邸



『園田高弘邸の継承と活用を考える会』でサロンを行っています！

MAP: 目黒区緑が丘 2-22-14

F カフェ・えんがわ



『おしゃべりハウス』と『地域講座』の活動場所としてお借りしています！

MAP: 世田谷区玉川田園調布 2-12-6

G 玉川まちづくりハウス



事務局の場所は
こちらです！

MAP: 世田谷区玉川田園調布 2-10-11

H 玉川田園調布一・二丁目



『住環境協議会』と『防犯パトロール』の活動範囲です！

MAP: 世田谷区玉川田園調布

地域の活動の企画に参加してください!

～企画も大募集しています～

地域講座

いろいろな技が学べる講座を企画しています!

*ハンギングバスケット講座



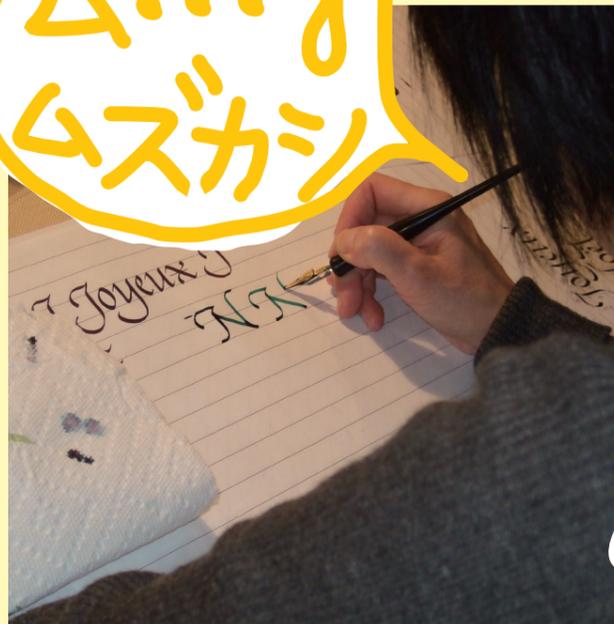
ボウ
も
じ
き
た



*フラワーアレンジ講座
～クリスマスリース作り～



ム...ム
ムスガシ



*カリグラフィー講座

KOPAの午郷恵子さんのアイデアを
いただいて...

プレーカー

遊具を積んだりヤカー(プレーカー)を
引いて公園で子どもと外遊びをしています!



プレーカー

世田谷には
子どもの遊びの達人が
たくさんいます!



楽多の会

デイ・ホーム玉川田園調布で高齢者のためのサロン活動を行っています!

*クリスマス会



計画からみんなで参加して考えたデイ・ホーム…
地域住民の交流、研修の場が
できました!



*はがき絵

*お庭の手入れ



*アニマルセラピー



*サロンで麻雀



うれしい
コン♡

バザー

毎年恒例のバザーからまちのフェスタへと
広がりはじめました!

デイ・ホームを開放して
バザー+交流の機会



[かすたねっこのお菓子]
地域の仲間と
遠くの活動にも参加



*子どものお話の会



アビターレが場所を
開放しました。

*東儀秀樹さんのミニコンサート



[カフェんがわ]
個人のお家がコミュニティ
カフェに開放されて

地域講座で
お世話になっている
[ラ・ブーケトリー]のお花

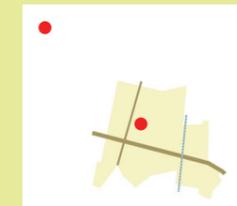




1. 世代を超えて暮らしやすいまちづくり.....

高齢者から子どもまで、誰でもが暮らしやすいまちを目指します

地域の福祉を考える楽多の会・プレーカー



お家を子どもたちの自由な居場所に開放

はじめは、玉川田園調布で地域の子もたちに開放された岡本さんの自邸跡地にデイ・ホームが建つと決まった1991年頃にさかのぼります。「岡本さんの想いをつないでいきたい!」と、玉川まちづくりハウスと有志がこの土地を区から借り花園づくりをはじめました。花や野菜を育てる喜びや、一緒に作業をする楽しさを分かち合い、少しずつ福祉の勉強をしてきました。



岡本邸跡地の花園

デイ・ホーム計画への参加

「たくさんの想いを反映したスペースであってほしい」

この声を受け、住民と行政が施設について話し合う区民会議がはじまりました。同時にこの地域での福祉のあり方を検討し、他の施設の見学やそこでの実習を重ねてきました。この会議に参加してきた住民有志が、デイ・ホーム着工後、1999年に手探りながら活動をはじめ、楽しいことが多かれと願って、「地域の福祉を考える楽多の会」と名付けました。



デイ・ホーム玉川田園調布の庭園

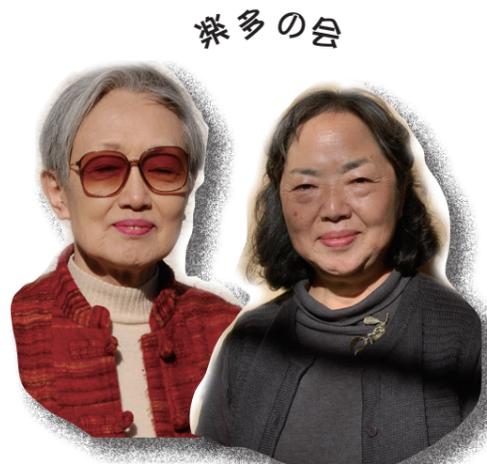
地域の福祉を考える 楽多の会

楽多の会の活動

ミニデイ・サロン活動として、ほぼ毎週水曜日、デイ・ホーム1階の研修交流スペースで高齢者のためのサロン活動(おしゃべり、手仕事、麻雀、お習字、はがき絵)を行ったり、ご近所ランチを催したり、美術館に出かけたりしています。

そのほか新しい試みとして、国際セラピードック協会の犬たちとスタッフに来ていただきドッグセラピーを実施しています。来ていただくためのお金を作ることを目的にチャリティーヨガ、チャリティーレイキも行いました。

また2階の園庭の手入れもボランティアが行っています。季節ごとに花柄つみ、草取り、植え替えなど折々の作業をしています。



林のり子さん 白鷲見和子さん

子育て支援 —— プレーカーの活動

子どもと外で遊ぼう!

2008年度から、世田谷区で子育て支援活動を先駆的に行っているKOPAの矢郷恵子さんのご協力を得て、おもちゃを積んだ小さなリヤカー(プレーカー)を公園に持っていき、子どもの外遊びを推進するという「世田谷区自然体験遊び場づくり事業」を月1回ほど行っています。2009年度は等々力保育園と協働して園の敷地内にプレーカーを置かせていただき、保育園の地域交流の企画と連動し、保育園のお向かいの「ねこじゃらし公園」で活動を行いました。

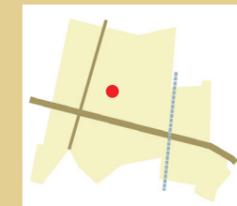
何回か続けて参加して下さる親子もいて、ボールを使ったミニ運動会や黒板のお絵かき、おままごとなどを楽しみました。



このまちが好き、この地域のお母さんが好き、私自身も3歳と8カ月になる子ども2人を子育て中。気軽に声を掛け合ったりお母さんたちにも子どもたちにも優しいまちになるといいなと思っています。毎日の忙しい生活の中、ゆっくり公園に出掛けて遊ぶって意外と出来ないものです。このプレーカーをきっかけにみんなで沢山遊んで沢山楽しめると良いですね。



プレーカーをお手伝いしてくれる
高橋明子さん



自分の住んでるまちの人と知り合いたい！

2008年度みどりの commons で寄付を集めるための連続講座を企画したところ、「近所の方とお知り合いになれてよかった」などの感想が寄せられ、お互いの顔が見える良質なコミュニティづくりのために、引き続き「地域講座」という名で講座活動を続けることとなりました。

講師は commons 連続講座でお世話になったデジカメの須藤正男先生やスケッチの小塚秀忠先生などおなじみの方に加え、スタッフの知り合いやご近所の方で自分の特技を教えていただけそうな方をお願いし、多彩な講座を催すことができました。



今までの地域講座

- ・陶芸 講師: 普賢寺麗先生 (大田区田園調布「STUDIO F 普賢寺麗陶芸教室」)
- ・フラワーアレンジ 講師: 神田勝弘先生 (世田谷区奥沢「ラ・ブーケトリ」)
- ・デジタルカメラ 講師: 須藤正男先生 (葛飾区在住)
- ・熟成肉の楽しみ方 講師: 加藤謙一先生 (世田谷区玉川田園調布「中勢以」)
- ・ハーブティー 講師: 笠政美先生 (世田谷区梅丘「ハーバルラウンジ」)
- ・スケッチ 講師: 小塚秀忠先生 (世田谷区用賀在住)
- ・ハンギングバスケット 講師: 池田恵美子先生 (世田谷区等々力在住)
- ・カリグラフィー 講師: 根岸香津代先生 (大田区鶴の木在住)
- ・夏休み自由研究 講師: 内山高之先生 (目黒区自由が丘「アカデミー・キッズ」)
- ・リフォーム 講師: 玉川まちづくりハウスほか



夏休み自由研究

2010年8月、地域講座特別編として小学生の夏休みの自由研究をお手伝いする講座が開かれました。小学校1・2年生は卵の殻を使った絵を作り、3・4年生は電池を使ったライトスタンドの組み立てに挑戦しました。

フラワーアレンジ講座

奥沢の花屋「ラ・ブーケトリ」の神田さんに季節の花のアレンジを習いました。2月は桃の花を使ってひな祭りのアレンジ、6月は夏に向けて涼しげなアレンジ、12月にはグリーンと木の実を使ったリース作りを教えてくださいました。



カリグラフィー講座

西洋書道と呼ばれるカリグラフィーを教えてくださいます。毎月1回月曜日、アルファベットの基本からカリグラフィーペンを使ったお花の描き方など、各自の技術に合わせて進みます。2010年の玉まちフェスタで作品を展示しました。



デジカメ講座

季節ごとに企画しているデジカメ講座。さくらの季節にはお弁当を持って多摩川に撮影会に出かけました。何度も参加して写真の腕を上げている常連の方もいらっしゃいます。撮った写真を宮本三郎記念美術館や玉まちフェスタで展示しました。



「手書きのカードは書いている間中、差し上げる方の事を想っていただけますね」とおっしゃった生徒のお一人の方の言葉が印象に残っております。
(玉川まちづくりハウスニュース2010年6月号より抜粋)

カリグラフィー講師
根岸香津代さん



地域の力

3. 地域の力が一つになって……バザー・防犯パトロール

地域のお祭りと安全、どちらも地元の力を一つに合わせて取り組んでいます



玉川まちづくりハウスバザー

まちのお祭りをつくろう！

2004年から毎年5月にデイ・ホーム玉川田園調布の1階をお借りしてバザーを行っています。ハウスの運営資金を集めるためにはじめた企画ですが、毎年50人ほどのボランティアの方が朝早くから売り子となってお手伝いくださり、実は売上よりもご近所の横のつながりを深めることに役立っていると実感しています。



2008年からはデイ・ホームだけでなく、道を挟んだ向かい側のガレリア・アビターレをお借りして、作品展や子ども向けの企画、カフェなどを同時開催しています。

2010年にはさらに発展して、玉川田園調布地域全体を巻き込んだお祭りにしていこうと考え、「玉まちフェスタ」と題してKEYAKI GARDENの店舗やエスプリ・ド・ピゴにもご協力を仰いだり、カフェえんがわで地元出身の雅楽奏者、東儀秀樹さんのミニコンサートを開いたりして大変好評をいただきました。玉川田園調布には商店街がないのでまちのお祭りと呼べるものがありません。この玉まちフェスタを人と人、お店とお店をつなぐ大事な機会と考え、町会とも連携して続けていけたらと思っています。



2月、バザーの手伝いをと声を掛けて頂き、玉川まちづくりハウスのスタッフとして名刺を持って仕事をする事になりました。沢山の方にまちを楽しんでもらう催しにするため「玉川まちフェスタ」とし、地域のお店、多くの方にご協力いただくことになりました。このフェスタが私にとってそうであったように、地域の新しい繋がりの元になればどんなに素敵なことでしょう！

(玉川まちづくりハウスニュース 2010年6月号より抜粋)

バザーをお手伝いくださった
松下圭子さん

防犯パトロール

地域の安全を自分たちの手で守りたい！

2004年4月に発足した玉川田園調布会パトロールは町会の組織ですが、その立ち上げの時に玉川まちづくりハウスも協力しました。発足当時の2004年はじめには27名が参加、2010年には登録している方は89名になりました。

自分の自由な時間に見回り、簡単な記録を提出して表やグラフにまとめるというユニークなパトロールの方法が注目を浴びています。防犯パトロール隊の活動は順調に推移し、空巣やひったくりなどはまったくといっていいほどなくなり、現在は地域安全活気に溢れたまち、すなわち清潔なまち、道行く人々が気軽に挨拶を交わし心が通い合うまちづくりに取り組んでいます。

これは防犯パトロール隊の活動だけでなし得るものではなく、その地域に住む人々や組織との連携・協働があってこそできることです。

これまでに都道事務所さんとの協働で玉川浄水場前のムベの植込みの整備など行いましたし、玉川田園調布交差点の歩道・車道のゴミはスーパー田園さん・ローソンさん・アルファロメオ販売店さん・田園メイゾンさんの日常の清掃のお陰でまったくなくなりました。

パトロール隊は発足時から玉川まちづくりハウスと協働関係を保ち、ハウスの2010年からの新事業「住まいを学び実践する地域講座」では講師を勤めるなどの協働を行っています。



ムベの植え込みが茂ったまま放置されていた2006年の環八沿い歩道(上)と、清掃されきれいになった2009年の状態(下)。

まちの安全、
私たちが守ります！



防犯パトロール隊

五十嵐寛さん

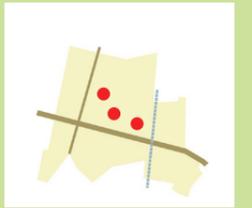
前田浩雄さん

杉浦宏嗣さん



4. 人と人を結ぶ……宮本三郎記念美術館と地域の会・クラシック音楽を楽しむ会・おしゃべりハウス

人と人を通じてネットワークが広がっています



宮本三郎記念美術館と地域の会



「人ひろば」第1回目のゲストは、世界的に知られる建築家集団、「象設計集団」の富田玲子さん。お話のテーマは「居心地のよい暮らしの場をつくる」。

地域の文化拠点を作りたい！

2004年4月に奥沢に「宮本三郎記念美術館」が誕生した後、何人かの有志が集まって、ここを宮本作品展示の場所としてのみではなく、この地域の人たちに対してさまざまな文化情報を発信してゆく拠点にできないか、と館側に要望しました。幸いにも親施設にあたる「世田谷美術館」のご理解を得て、2007年からボランティア組織「宮本三郎記念美術館と地域の会」が発足し、講演会、映像作品映写会、コンサートなどの催しをこの会の企画によって行なってきました。玉川まちづくりハウスは発足からこの活動をサポートしています。

この地域には、さまざまな分野で卓越した業績をお持ちの方が多く住んでおられます。こういった方々、あるいはこの方々と親しいご友人をお招きしての催し「人ひろば」は、ほぼ隔月ごとに回数を重ねて、定着したファンも得ています。

クラシック音楽を楽しむ会

クラシック音楽を楽しむ会では、定期的なクラシック音楽鑑賞を通して、地域での交流を深めています。はじめは玉川まちづくりハウスのお試しデイケアとしてクラシック音楽鑑賞を企画したところ大好評で、99年5月より月1回の定期的な会として地域の有志の方々により運営されています。2010年10月で135回を迎えました。

毎回40名前後の方々が満員になってしまう人気の会ですが、その秘密は、毎回プログラムを考え、LP・CDを選盤する植村攻氏の熱意と臨場感溢れる解説、その日限定で用意されるおいしいお菓子にもあるのかもしれません。



植村攻さん

おしゃべりハウス

地域の人材を発掘する

ハウス近隣の日常的な交流活動を活性化することを目的とし、その時々にあったテーマで気軽な話し合いの場としておしゃべりハウスを開いています。毎回各方面のゲストをお招きし、お茶を飲みながら楽しいお話を伺う集いです。2002年から2007年まで21回開催されました。

奥沢「土とみどりを守る会」の活動について語る堀内正弘さん…



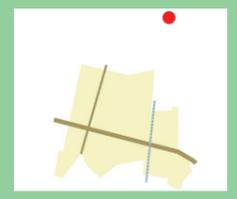
奥沢2丁目は昔“海軍村”と呼ばれていまして海軍将校がたくさん住んでいてちょっと特殊なコミュニティをつくっていたとか、今後歴史を背景にしてそれを生かすには環境や緑を残すまちづくりをしていかないといけない。海軍村は現在3軒ほど残ってしまっていて今年地域風景資産に出してみようかと思っています。一つの家は公開されていて、子どもの読書空間やミニコンサートなどに使われています。地域のさりげない拠点となっていくといいなと思って私も支援していくつもりです。

2007のおしゃべりハウス

- 2007年 10月 20日 第21回 ペオ・エクベリ・相根昭典：『せたがやでシティ・エコ・ヴィレッジ』
- 2007年 8月 3日 第20回 志賀逸夫：『祖父の思い出』
- 2007年 6月 29日 第19回 志賀逸夫：『脳を視る』
- 2007年 5月 30日 第18回 堀部安嗣：『ケヤキを残したい！のその後』
- 2007年 4月 22日 第17回 森章：『相続を上手に乗り切るためのポイント』
- 2007年 3月 4日 第16回 堀内正弘：『奥沢グリーンマップと土とみどりを守る会の活動』
- 2007年 1月 21日 第15回 有元葉子：『ケヤキを残したい！』

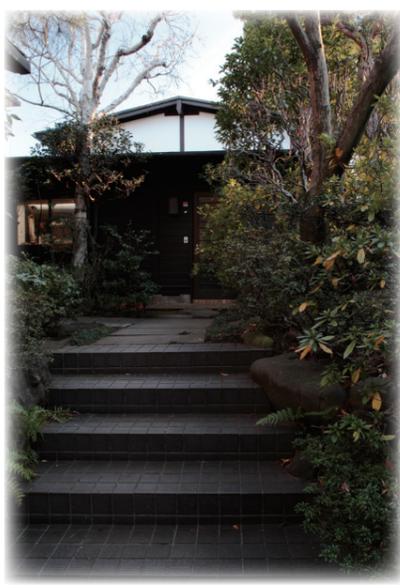
文化 + 環境

5. まちの記憶をつなぐ……園田高弘邸の継承と活用 目黒区の近代住宅の保存に取り組んでいます



住み続けてきた自宅を残せないか？

吉村順三設計の「自由が丘の家」として知られる園田邸（1955年竣工）は、吉村門下の建築家小川洋により増築（1987年）され、ピアニスト園田高弘終世の住まいとなりました。いまも此処にお住まいの園田春子夫人が、女学校時代の同級生で近在のドキュメンタリー映画作家 藤原智子さんに、この家の行く末について話され、「宮本三郎美術館と地域の会」の活動を通じて藤原さんと親交のあった玉川まちづくりハウスにもご相談がありました。そこで地域のまちづくりにかかわる有志や建築専門家が集い、この建築を次代へ継承することを目的として、2008年秋に「園田高弘邸の継承と活用を考える会」を発足させました。



園田高弘邸の継承と活用を考える会の活動

会の主な活動として、「音楽と建築の響き合う集い」と題し、ピアノ演奏と吉村順三や建築保存についてのレクチャーのサロンを開催しています。2010年5月で7回目を迎えました。

この集いによって、建築空間と音楽の魅力を楽しむと共に、この場所の継承に関心を寄せる方々のネットワークを広げ、住宅建築保存の方法を見出すことを主な活動の方針としています（活動の記録をまとめた小冊子も発行していますので、ご関心のある方はお問い合わせください）。

また、この建物は目黒区にあるため、自由が丘住区住民会議や自由が丘街づくり会社ジェイ・スピリット、自由が丘商店街振興組合などさまざまな方とハウスが協力して活動を行っています。ハウスの活動範囲を広げる意味でも重要な役割を持った活動です。



近代建築の保存について

園田邸の場合は売却前に所有者から相談があり、何とか手のうちようがあるのではと期待しているのですが、いったん開発業者の手に渡ってしまうと、貴重な建築を保存することがきわめて難しいというのが日本の実情です。文化財などに指定されている場合を除き、解体するのは所有者の自由であり、残るかどうかは、市民レベルの保存運動と開発業者の良心にかかっているからです。

たとえばイギリスには、ナショナル・トラストのような組織がこうした貴重な建築や環境を保全するために買い取ることで所有者といえども勝手に壊せない仕組みがあります。また、アメリカでは、クリスティーズのような美術品オークション会社が、著名な建築家が設計した近代住宅も取り扱っており、芸術的価値があるものとして売買されています。

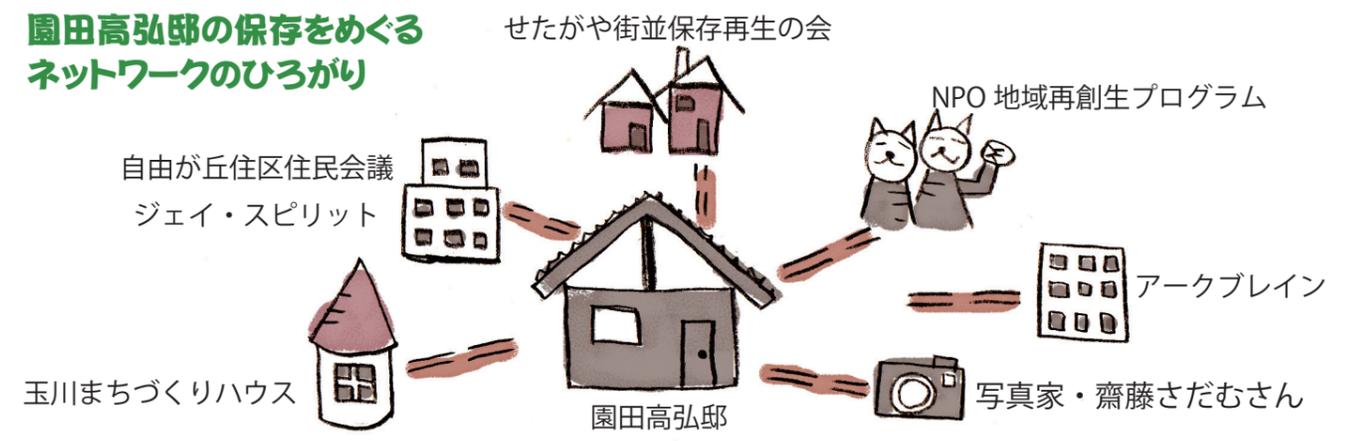
残念ながら、日本にはそうした仕組みは今のところありません。しかし、一度失われた歴史的、文化的に価値のある環境や建築は二度と取り戻すことができません。どうすればこうした状況を打開することができるのか、真剣に考える時代にさしかかっているのではないのでしょうか。

（玉川まちづくりハウスニュース 2008年5月号より抜粋）



園田高弘邸の継承と活用を考える会発起人 木下壽子さん

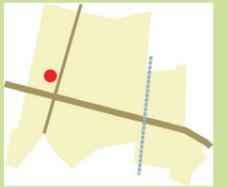
園田高弘邸の保存をめぐるネットワークのひろがり





6. こうしてケヤキは残された……みどりのコモンズ

はじめはバス停そばの1本のケヤキを守りたい、と思う住民の願いでした



建て替え後もケヤキを残したい…

2007年、玉川田園調布バス停前の建物建て替えの際に、庭のケヤキを残すための寄付金を集める活動を始めました。きっかけはケヤキを残したいと考えた住民の方が、ご近所の方に相談され、それがハウスに伝わったことにありました。1年後には移植費用目標額100万円を達成することができました。工事中にケヤキを移植した際に世田谷区の新しい制度、樹木の移植費用助成金を申請し10万円の助成金をいただきました。新しい建物はケヤキの木をシンボルとしてKEYAKI GARDENと名付けられ、2008年10月に竣工しました。

「みどりのコモンズ」の誕生

このできごとをきっかけに、宅地のみどりを共有財産＝コモンズと考え、「みどりを次代に継ぐ」しくみをつくらうと考えたのが「みどりのコモンズ」です。

NPO法人玉川まちづくりハウスの活動している地域は世田谷区の中でも良好な住宅地です。しかし土地売買と建物建設のたびに貴重な緑は失われていく現実があります。世田谷区の緑被率は住宅地のみどりに負うところが大きく、この事態を何とかすることは大きな意味があると考えます。ケヤキを残す運動の際は、コモンズの考え方を理解していただきご寄付を集めるために、さまざまな分野の先生をお招きし、6回にわたる連続講座を開催し、たくさんの方に参加していただきました。この活動に対して2008年5月、「セブン-イレブンみどりの基金」より助成金をいただきました。

今後も基金のしくみをみなさんとともに考えていきたいと思えます。



建て替え前の庭のケヤキ



建て替え工事の間移植されていました。



竣工後のKEYAKI GARDEN。
1階に4つの店舗が入りました。



思い出のケヤキを残したい…

あの木も建物もこの土地の方たちの思い出に残っているものでもあるので、なんとか残せないものだろうかということでオーナーにお願いしたんです。そうしたらしばらくして「残します」とひと言おっしゃってくださったので本当に嬉しかった。建物は新しくなりますが、やはりまちに住んでいる人にとって緑がなかったら散歩する気にもならないと思うんです。緑は大切で一緒に生きていきたいと思っていますし、極力伐らなくても済む木は移すという手間はかかっても残していただきたいと思うので、願いが叶って本当に嬉しいです。

(玉川田園調布バス停前のケヤキを残すきっかけとなったのはその建物でお料理教室を開いていらっしゃる料理研究家・有元葉子さんの提言でした。2007年1月のおしゃべりハウスでその思いをお話いただきました)



料理研究家 有元葉子さん

ケヤキを残すために設計を変更…

今回はケヤキを残すか残さないかの問題、しかも現在ゆったりとした緑と空間がある庭の木を全部伐って建物で埋めるということに大変な罪悪感を感じていました。建物の面積を減らしてボリュームを最小にし空地を残すことができれば理想的ですが、経済とのバランスも建築において非常に大事なことです。そのところで大変悩み、自分なりの答えを導き出すことになりました。今の案に落ち着くまで大きく2案ほど変更しましたが、最後の実施設計のところでこれでは納得できないと自問自答し、ようやくこのプランに落ち着き、これで間違いないと確信しています。

(玉川まちづくりハウスニュース 2007年6月号より抜粋)



KEYAKI GARDENを設計した
建築家 堀部安嗣さん



7. 自分たちでまちを守る……住環境協議会の活動

「このままではまちのみどりは失われてしまう」…危機感を持ったまちの住民が自分たちでルールをつくりました



たいへんだ！土地が細分化され、 地域のみどりがどんどん失われていく……

大田区の「田園調布」と並び、世田谷区の「玉川田園調布」は、大正末から昭和のはじめの頃は、みどり豊かな田園地帯として知られていました。

その後、相続が重ねられるにつれ土地の分割が行われ、しだいに敷地は狭く、庭はなくなり、みどりは失われていきました。さらにバブル期にミニ開発が行われるようになり、住民の間に「このままではいけない！」という危機感が広がりました。

地域の町会である玉川田園調布会が、この問題に取り組むことになり、玉川まちづくりハウスが専門知識と経験を生かして協力することになりました。



住環境協議会の発足

この問題を解決するため、都市計画法による「地区計画」という地域独自のルールをつくることとし、1997年に住民が玉川田園調布住環境協議会を発足、12回の協議会を経て98年に「玉川田園調布一・二丁目地区まちづくりについての提案」を世田谷区長に提出しました。その提案をもとに2000年に「地区計画」と「まちづくり協定」が施行されました。

地区計画を施行したあとも…

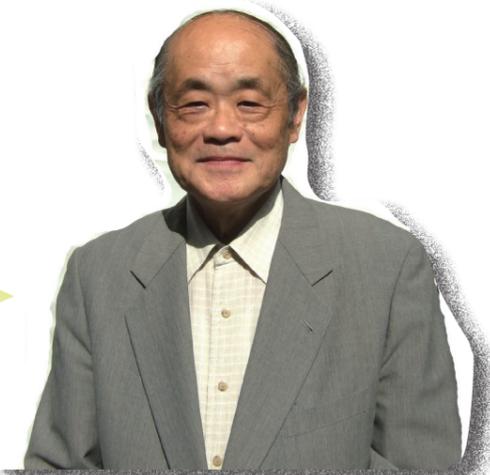
「地区計画」の施行後も、それを守ってもらうために、玉川田園調布一・二丁目地区に建物を新築される方には事前に計画の説明をお願いしています。

「計画確認チーム」という有志の建築家数名がチェックに当たっています。

**玉川田園調布では
最低敷地面積は
160㎡か130㎡
と決まっており
それ以下には
分割できません！**

住環境協議会の会長を3期務めた 平松さんからひとこと！

「新しくここに引っ越してくる方はこのみどり豊かな住環境が気に入って、越してこられるわけでしょうか？ということは、このまちの住人になったら、今度は自分がみどり豊かなまちになるよう努力していきなならないということです。」



住環境協議会前会長 平松陽一さん

携帯電話の基地局が…!?

まだ携帯電話がそれほど普及していない頃、ある電話会社がこの地区に携帯電話の基地局をつくる予定であることがわかり、電磁波による健康被害を恐れた住人の方が住環境協議会に相談を持ち込みました。住民と電話会社の間で話し合いが持たれ、結局基地建設は取りやめになりました。



こんなこともありました！

アスベストが飛散!?

個人の住宅を建て替える際、建設会社の方から「アスベスト飛散のおそれがある」との張り紙が出され、心配したご近所の方から協議会に相談がありました。調査の結果、気をつけて解体すれば問題はないということがわかりましたが、以降取り壊しの際にも有害物質が出ないように協議会として十分注意を払うということになりました。



木を伐らないで!

線路沿いの集合住宅が建て替えられることとなり、敷地内にある大きなヒマラヤスギを建て替え後も残してほしいと建設会社をお願いしましたが、住環境協議会との数回の話し合いの途中で、工事に支障があるとのことで木は伐られてしまいました。非常に残念でしたが、代わりに同程度の緑化を約束してもらいました。

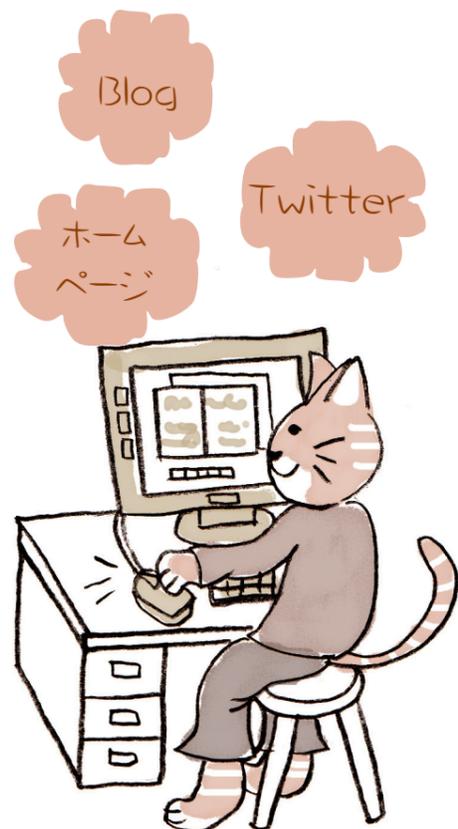


ホームページ・ブログ・ツイッター

ホームページでは随時活動内容やイベント開催をお知らせしています。またみなさんからのお問い合わせや、まちの発信をいち早く拾い上げ共有できるよう2011年ホームページをリニューアルします。

ホームページを見て冊子を買ってくださったり、視察をされる方も増えています。これからは情報の受信発信を活動の大事な柱と考えています。一緒に考えてくださる方募集中！

ニュース作りやホームページでの発信など、パソコンが得意でお手伝いくださる方大歓迎！
空いている時間を使ってあなたのスキルを活かしませんか？



ニュース

毎月月末に会員向けニュースを発行しています。ニュースではハウスの活動を紹介しています。

2009年から特に力を入れている地域講座の記事を中面に掲載しました。毎回講座に参加していただいた方に感想をいただき、それがまたスタッフ一同のはげみとなりました。コラムニスト竹内希衣子さんの連載「四季のメモ」も好評です。誌面の形や内容もリニューアルを検討中。皆さんの知恵をお貸しください！



ハウスの冊子～ぜひご購読ください～

玉川まちづくりハウスの活動記録 みんなでホイッ part 1

1991年4月から1996年3月までのハウス創世記の5年間の記録です。
定価 1000円



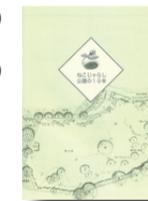
玉川まちづくりハウスの活動記録 みんなでホイッ part 2

1996年4月から2000年10月までの活動の記録です。デイ・ホーム玉川田園調布誕生物語や地区協定ができるまでが書かれています。
定価 1500円



耕すようにまちを育てよう 1「ねこじゃらし公園の10年」

世田谷区立ねこじゃらし公園は、計画段階から住民参加でつくられ、その後も住民グループが管理運営している公園です。その公園ができるまでのワークショップの記録や、グループねこじゃらしの活動を紹介します。
定価 1000円



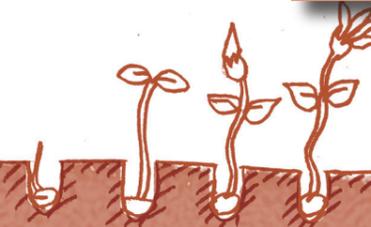
耕すようにまちを育てよう 2「地区計画とまちづくり協定のつくり方」

世田谷区玉川田園調布1、2丁目地区では、敷地の細分化に歯止めをかけ、緑豊かな住環境を維持していくため、玉川田園調布住環境協議会を組織して「地区計画」と「まちづくり協定」をつくりました。その経過と現在の計画確認チームの活動を紹介します。巻末には資料として、地区計画計画図やまちづくり協定書を収めています。
定価 1000円



マンガでつづる 玉川まちづくりハウスな日々

毎月ハウスから発行されているニュースに載っているハウスの日々をつづったマンガを冊子にまとめました。これで事務局の日常が垣間見られるかも？定価 500円（うち寄付 200円）



専門力

9. 専門的なスキルを貸します.....研修・調査などの受託事業

今まで蓄積してきたまちづくりの経験をあなたのまちで役立てます

対象地域は
全国です

あなたのまちの“まちづくり”をお手伝い

あなたのまちでまちに関する条例(例えば自治基本条例)をつくる時、公共施設をつくる時、地域資源を活用したいと考えているとき、あるいはまちのニュースをつくりたいときなどに、まず何から始めたらよいかわからない場合は、ご相談に乗ります。これまで蓄積してきたまちづくりの経験を生かして、住民参加のワークショップなど具体的なご提案ができます。

ご連絡先 NPO 法人玉川まちづくりハウス

〒158-0085 東京都世田谷区玉川田園調布2-11-10
TEL: 03-3721-8699 FAX: 03-3721-8986
Mail: tamamati@q06.itscom.net
<http://www.tamamati.com>

これまで取り組んできた事例

「自治と協働のまちづくり」大和市

玉川まちづくりハウスは2001年から神奈川県の大和市の「大和市新しい公共を創造する市民活動推進条例」や「市民自治区準備型ワークショップ」等のプロジェクトのお手伝いをしてきました。行政と市民との協働のあり方、市民自治区の可能性等いつも時代の最先端のテーマを現場で考える貴重な経験をさせていただきました。



「町田市新庁舎建設基本計画市民ワークショップ」町田市

町田市では、新庁舎を建設するにあたり2006年1月に榎文彦氏が設計者として選ばれ、基本設計を進めるに際し市民参加によるワークショップが実施されることとなり、ワークショップの企画と運営についてハウスがお手伝いすることとなりました。新庁舎建設基本設計市民ワークショップは、公募市民と、これまでに新庁舎の検討に参加した経験のある旧市民委員、庁舎建設用地の近隣にお住まいの方等約60名の方の参加により、2007年3月から8月まで6回開催されました。

「印西市の市民参加条例をつくる会ワークショップ」印西市

印西市市民参加条例の市民案は、市民会議14回、条例をつくる会12回、計26回、実に3年の討議を重ねて作成されました。本格的に玉川まちづくりハウスとしてこのワークショップをお手伝いすることになったのは、2006年9月から2007年3月までの9回の「印西市の市民参加条例をつくる会」のワークショップです。

「官民協働のまちづくりを学ぶ」(財)全国建設研修センター

全国建設研修センターとの協働事業として2005年から2008年度まで官民協働のまちづくり研修が行われました。「大和市が目指した協働の世界」「三鷹市の参加と協働のまちづくりに学ぶ」「公園づくりから始まった協働のまちづくり」などテーマごとに多彩な講師を迎え各地のまちづくりを検証しました。



「ネットワーク形成イベント」世田谷トラストまちづくり

2010年1月～3月、世田谷トラストまちづくりの「ネットワーク形成イベント」をお手伝いしました。

全3回のイベントで、食・住・資金と3回ともまったく違う切り口のお話でしたが、続けて参加していらっしゃる方も多く、各テーブルに分かれてのディスカッションでは毎回時間が足りなくなるほど。“ネットワーク形成”の場としては、よいスタートとなったと思います。



「楽々住ミナール」世田谷区

2010年2月、世田谷区で「楽々住ミナール」が開催されました。世田谷区では住まいや住環境などに関する学習機会を設けていて、今回で7回目を迎えた「楽々住ミナール」もこのプログラムの一環として開催されました。玉川まちづくりハウスは世田谷区の住宅まちづくり総合相談員を受託している住まい・まち相談ネットワークの一員としてこの事業のお手伝いをしました。



10. 私たちは何を指して始めたのか

ハウスを始めた頃考えていたことのおはなしです

1991年、林泰義（都市計画コンサルタント）、伊藤雅春（一級建築士）、小西玲子（一級建築士）の3人で玉川まちづくりハウスの活動を始めました。改めて考えてみると、建築と都市計画の専門家であった3人は、会社ではない形で継続的に、地域の住民や行政から、地域のまちづくり主体として活動するために必要な信頼を得ることのできるスタイルを探していました。

活動を始めるとほぼ同時に林と伊藤は、アメリカのCDC's（コミュニティ・ディベロップメント・コーポレーション）を訪ね歩く調査に参加する機会を得ました。そこでは様々な地域の非営利民間組織が、公共サービスに準ずるような活動に取り組んでいるのを目の当たりにしました。地域のまちづくりがボランティアとしてでもビジネスとしてでもなく、地域の仕事として取り組まれていたのです。この視察以降、目指すべきはこの「まちづくりNPO」であると感じて活動を続けてきましたが、まちづくりNPOが活躍する世界がどんなものなのか、はっきりわかってはいませんでした。自分たちでも少し公益性に対する意識の高いまちづくりコンサルタントのようなものだと考えていたようです。

2010年になって、当時視察したベッドフォード・スタイブザント・ディベロップメント・コーポレーションというCDCが、実は近隣住区法人(1)と呼ばれる組織であり、地域の自治年の受け皿となることを目指す活動をしていたということを知りました。NPOはテーマ型の市民活動と理解されがちですが、地域の自治の問題を前にして、改めて、玉川まちづくりハウスは、優れたコミュニティ・オーガナイザーでありたいと考えています。そして、地域の自治を具体的に担うために福祉や安全や住環境、文化、リサイクル等の分野の活動を事業化し、持続的に活動できるコミュニティ法人のような存在になりたい。これが現時点での思いです。

(1) 近隣住区法人：近隣住区政府を目指した地域自治を担う地域自治組織

年表：玉川まちづくりハウスの初期の活動と世田谷の動き

	'89	'90	'91	'92	'93	'94	'95	'96	'97	'98	'99	
世田谷区・その他の動き	■世田谷トラスト協会設立			■まちづくりセンター発足 ■世田谷まちづくりファンドの設定		■世田谷区基本構想議決	●阪神・淡路大震災 ■世田谷区基本計画 ■世田谷区街づくり条例の改正			●NPO法成立 ■風景づくり条例		
玉川まちづくりハウス関連活動			■玉川まちづくりハウス活動開始			■ねこじゃらし公園オープン	■玉川田園調布高齢者在宅サービスセンター 住民参加会議→デイ・ホームへ				■玉川田園調布住環境協議会設立	



日本、世田谷の市民活動の歩みとともに考察

1991年、世田谷のまちづくりはある意味絶好調の時期にあり、都市デザインと自治と参加をテーマに全国から注目を集めていました。「ハウス」という言葉は、世田谷区で当時考えられていた「まちづくりセンター」構想の中から生まれた概念です。市民の中にいる専門家が核となって、市民主体のまちづくり活動をお手伝いするような支援組織を区内5つの地域にまちづくりハウスとして立ち上げていくというボトムアップ型のセンター構想が模索されていたのです。

玉川まちづくりハウスを実践するという事の中には、世田谷のまちづくりの最先端の現場を体現するという自負もありました。ボランティア的なまちづくり活動がNPOとして法人化され、行政との協働という政策理念が広がっていくにつれて、玉川まちづくりハウスにも事業体としての自立性が求められるようになりました。

イギリスのまちづくり事業体の事例に学べば、コンサルタント的な委託事業の収入に頼る時期を経て、不動産の活用による安定的な収益構造に移行することが重要な組織の発展として報告されていますが、玉川まちづくりハウスにとって本当にふさわしいビジネスモデルが何であるのか、見いだせないのが現状です。玉川まちづくりハウスは、事業化という点で大きな壁に直面しています。これからはまちづくりNPOとして本当の試練の時なのだという意識は正会員の中では共有化されていると思います。



玉川まちづくりハウス
伊藤雅春 運営委員長

製作 特定非営利活動法人 玉川まちづくりハウス

(右写真が事務所の建物です)

〒158-0085

東京都世田谷区玉川田園調布 2-11-10

TEL : 03-3721-8699 FAX : 03-3721-8986

Mail : tamamati@q06.itscom.net

http://www.tamamati.com



最寄り駅

■東急東横線 :

自由が丘駅・田園調布駅より徒歩 7 分

■バス

「渋谷-田園調布」: 玉川田園調布下車 1 分

「世田谷区民会館-田園調布」: 玉川田園調布下車 1 分

スタッフご紹介



小西玲子
事務局長

企画を立てたり
人を集めたり
大忙しです!



柴田希美絵
編集担当

ニュースや
冊子を作
ってます!



伊藤雅春
運営委員長

自宅の一室を事務局に
しています!



吉見千晶
園田邸担当

園田邸保存の
活動をして
います!



池田麻未
WEB 担当

ホームページを
作ってます!

ハウスの活動を支えてくださる方々を ご紹介します!

住民、行政、地域の企業との協働を実践した活動を行う「玉川まちづくりハウス」。サービス・流通連合は、以前からまちづくりについて教をいただいています。これからも玉川地域のみなさんの思いを実現する取り組みによって、日本のまちづくりのトップランナーであり続けてください。
(サービス・流通連合・向園英雄)



「市民主役のまちづくりを進めていくためにまちづくりハウスを創りたい」と願った90年代の初頭。その第一歩が玉川まちづくりハウス。画期的な第一歩でした。今では当たり前の市民協働のノウハウを開拓した先人たち。日本の参加を育てたハウスに拍手です。
(KOPA・矢郷恵子)

玉川まちづくりハウスからハンギングバスケットで彩られたお宅が広がって行ったら楽しいですね。
(地域講座ハンギングバスケット講座講師 池田恵美子)

地域のカ

専門カ



ドッグセラピーの活動を広げていきたいです。
(楽多の会・神田敦子)

福祉

地域で開かれた音楽会が何らかの形で続けられたらと思っています。
(園田高弘邸の継承と活用を考える会・木村常在)

文化

玉川まちづくり
ハウス



情報



環境

読書空間みかものホームページを玉川まちづくりハウスで作っていただいています。見てください!自分が楽しめる活動・場をつくり出していくこと。少しずつ輪が広がっていくことをめざして…。
(町田恵美子)



NPO活動は継続することに大きな意味があると思います。活動資金を確保するのがネックになりがちなのは辛いことですが…。ハウスのニュース「みんなでホイッ」に「四季のメモ」を毎月楽しく書かせていただいています。
(竹内希衣子)

